



いよいよ新病棟完成！ 新しい病院運営体制へ

病院長 小林 祥泰

待ち望んでいた新病棟、救急センター、手術室、ICUなどが平成23年6月末にオープンします。旧病棟からの移動や新病棟での運用開始がスムーズに行くようよろしくお願いします。これに先駆けて4月からは救急部の体制を従来の各科当直制から7名の救急部専属医と研修医による本格的なER体制に改編します。7月からはHCUが救急病床となる予定です。既設病棟は半分が工事のため病床が減りますが、大学病院としての高度機能は手術室、ICU、HCU等の充実および各種センター病棟開設でカバーできる予定です。チーム医療の推進だけでなく、大幅な個室病室の増設や個室天井裏への出雲大社の看護の神様の天前社（あまさきのやしろ）の屋根の檜皮炭敷設、小児センターのブルーナカラーとミッフィーのトータルコーディネート等により入院生活のアメニティの向上が期待されます。平成24年度には救命救急センターも開設予定で、その後にはドクターヘリも一部分担する予定です。是非新しい病院で働きたい看護師さんに沢山来て貰いたいと思います。新病棟も含めたスムーズな運用のため6月から入退院管理セン

ターを立ち上げ、入退院管理師長によるこまめな部屋の移動と時間を加えた四次元入退院管理システムを稼働させ分りやすく効率的な仕組みを構築する予定です。このためにクリニカルパスの発想を大幅に変えて簡略化とフレキシブル化を図り大半の患者さんに適応できるよう検討中です。また、最近話題になっているAutopsy Imaging(Ai)（死亡時画像診断）も霊安室の隣に専用CTを設置し7月からスタートします。当院でお亡くなりになった患者さんは全員このAiを受けて頂く予定です。高速CTなので時間は数分以内です。警察等からの依頼の法医関係のご遺体はもちろんですが、解剖実習のご遺体も画像診断教育用にAiを行います。

新しいコンセプトの新病棟がフルにその機能を発揮できるよう、よろしくご協力のほどお願いいたします。

東日本大震災で被災された方々及び関係者のみなさまには、心より御見舞い申し上げます。島根大学では、学内有志に義援金を募っております。職員の皆様からの暖かいご支援をお願い申し上げます。

平成23年
新病棟完成

看護師・助産師 大募集

- 目次 -

いよいよ新病棟完成！ 新しい病院運営体制へ	1P	日本顎顔面インプラント学会研修認定施設に認定	12P
病院再開発情報	2-3P	患者用クリニカルパス兼入院診療計画書の運用開始について	13P
平成23事業年度計画が決定しました	4-5P	第4回島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催	14P
院内移植コーディネーターの設置が決まりました	5P	日本睡眠学会認定医療機関として	15P
平成23年度病院経営改善目標値	6P	平成22年度病院院長表彰について	16P
RFIDタグを利用した個体管理システム島根大学附属病院へ世界初の本格導入	7P	ワークライフバランス支援室が「大学病院マネジメントセッション」で事例発表しました	17P
病院再開発に伴う医療機器整備について	8P	がん医療従事者研修を隠岐島前病院に中継	18P
NPO法人卒後臨床研修評価機構による評価結果	9P	地域医療交流サロンが移転・拡充しました	18P
外来がん化学療法レジメンの病院情報システム登録について	9P	医師事務作業補助者養成研修を実施しました	19P
ロボットスーツHALを導入しました	10P	第14回環境報告書賞 公共部門賞を受賞	19P
あなたの胸痛の原因は食道にあるかもしれません	10P	病院運営委員会の報告	20-22P
原因不明の腹部膨満感の検査を始めました	11P	ボランティア活動について	22-23P
5大がんに関する地域連携パスについて	11P	看護師・助産師大募集	24P
クリニカルパス大会を開催しました	12P		

病院再開発情報

病院再開発担当 井川 幹夫、石川 俊行、渡部 晃

新病棟見学会について

新病棟については、平成 23 年 6 月下旬の開院に向けて外構工事（周辺道路・駐車場の舗装、植栽等）が完了しました。内部的には、大型医療機械設備の設置、サイン等が完了している状況です。6 階の小児センターにおいては、子供たちにより良い療養環境を提供する目的で「ミッフィー」をキャラクターとして採用しており、機能別に色分けしたミッフィーカラーの内装でより明るく楽しくなるような病棟となっています。3 月には医学科 5 年生を対象に見学会を行いました（図 1～6）。

4 月は、まだ、工事や設備搬入が継続していますので、一度に多くの見学者を受け入れることはできませんが、下記窓口に申込みいただければ工事現場等との日程調整を行い見学いただくことが可能です。

なお、下記の注意事項がありますので、ご承知おきください。

【見学申込窓口】

施設整備課 石川（内線 2054）ishikato@jn.shimane-u.ac.jp

【新病棟見学会の注意事項】

病院整備推進室担当者が同行します。

1 度の見学人数は人数 20～30 人までとします。

ヘルメット、手袋の着用は必要ありません（4 月から）。

上履きへの履き替えが必要です（大学のスリッパが準備されています）。



5 月からは、移転に伴う移転先（場所）の確認等が必要となることから時間を限定したフリーでの見学を可能とする予定です。見学可能な日、時間帯、見学時の注意事項については、後日お知らせいたします。



図1 3F手術室



図2 6F小児病棟 4床室



図3 6F小児病棟廊下



図4 5F緩和ケア病棟前の緑化屋上とウッドデッキ広場



図5 9F個室病棟 食堂・談話室



図6 見学会を終えて

新病棟の呼び名が決定！ A、B、C病棟

新病棟の完成に伴い既設東西病棟の呼称を下記のとおり変更します。新病棟への移転時から新しい病棟呼称を使用します。今後、各種案内版、印刷物等の表記を変更する準備を進めます。

		新病棟	既設西病棟	既設東病棟
病棟区分(呼称)		C病棟	B病棟	A病棟
病室 番号	9F	9 6 1 ~ 9 8 4		
	8F	8 6 1 ~ 8 7 9	8 3 1 ~ 8 4 8	8 0 1 ~ 8 1 5
	7F	7 6 1 ~ 7 8 3	7 3 1 ~ 7 4 8	7 0 1 ~ 7 1 8
	6F	6 6 1 ~ 6 7 4	6 3 1 ~ 6 4 8	6 0 1 ~ 6 1 8
	5F	5 6 1 ~ 5 8 1	5 3 1 ~ 5 4 8	5 0 1 ~ 5 1 8
	4F		4 3 1 ~ 4 4 5	4 0 1 ~ 4 1 8
	3F		3 3 1 ~ 3 4 5	3 0 1 ~ 3 1 6

(病室番号の重複はありません)

病室番号の範囲(下2桁) (61~90)

(31~60)

(01~30)

病棟部分遠景(南側より)



平成23事業年度計画が決定しました

中期目標・中期計画検討委員会 附属病院部会 井川 幹夫

第2期中期目標・中期計画期間（平成22年度～平成27年度）に係る平成23事業年度の計画が、下記のとおり決定しました。

この計画は法人化後、各国立大学が策定したそれぞれの中期目標・計画を確実に実施し発展を図るため、当該年度の実施事業を具体的に定めたものであり、病院再開発計画も後半の整備完了年度に入り、本年度は念願であった新病棟が開院し質の高い医療提供体制の整備・充実が実現するなど、各種プロジェクト事業も掲げています。

関係部署におかれては、病院長のリーダーシップの下に全ての計画が達成できるよう、積極的な取組をよろしくお願いします。

なお、23事業年度計画の実施状況は、年度末に報告することとなりますので併せてお願いします。

中期目標	整理番号	中期計画	主担当理事	平成23年度計画
グローバルに活躍する能力を有し、地域医療に貢献できる幅広い医療人を育成する。	44	地域医療教育研修センターを中心に、地域に立脚した魅力ある研修を推進するとともに、医療人研修(WWAMI)プログラムの成果を活用し、海外での地域医療研修も加えて、国際的視点を持つ医療人育成プログラム「島根モデル」を推進する。	医療担当(医学部)	<p>島根県及び地域の臨床研修病院との連携を強化し臨床教育を充実させる。また、引き続き海外研修も含めた大学病院連携型医療人養成事業の推進を図るとともに、関係大学及びその関連研修病院との交流実績の中間評価を行い、交流強化に向けた推進計画を立案する。</p> <p>島根県の地域医療再生事業に参画して設置した地域医療支援学講座を中心に、島根県を含む地域医療機関と連携し地域医療人の育成・支援を推進するとともに、島根の地域性を活かした魅力ある医療人育成プログラムの構築に向けて「NPO法人島根県地域医療支援センター(仮称)」の設置に向けた取組を推進する。</p> <p>がんプロフェッショナル養成プランの最終評価を行い、総括するとともに、継続・発展が可能な「がん診療専門職養成事業計画」を検討する。</p>
	45	国際貢献できる医療人を育成するため、先進的医療について、特にアジアの諸国との交流を推進・強化し、相互の医療レベルを向上させる。	医療担当(医学部)	<p>新技術の臨床実用化研究を推進するため、引き続き「寧夏医科大学附属医院整形外科交流センター」に研修医及びスタッフを派遣し、先進的医療に係るプロジェクトの下に臨床医師等の診療技術の教育交流を推進する。また、双方向型学術医療交流拡大のため、寧夏医科大学附属医院からの研究者受け入れを推進し、附属病院からは泌尿器科、病理部などで臨床研究医師の派遣を開始する。</p> <p>アジア諸国との臨床研究交流を推進し、小児の難病の診断・予防・治療等に関する技術指導、データ収集等を行い、相互の医療レベルの向上を図る。</p>
島根県の医療の中核として臨床研究を推進するとともに、より安全、安心かつ質の高い医療提供体制を構築する。	46	附属病院再開発等により、救急体制の強化を含む地域医療連携の推進と、大規模災害時にも十分機能する医療機能を確保するとともに、島根県における最重要基幹病院としての機能強化と先進医療の充実、及び地域を含めた医療安全と個人情報保護を推進する。	医療担当(医学部)	<p>救命救急センターを設置するための組織体制等諸準備を進めるとともに、防災ヘリコプターによる島根県西部地域からの病院間搬送の充実及びドクターヘリコプター事業に係る支援体制の構築を検討する。また、附属病院DMAT(災害派遣医療チーム)と地域医療機関等と連携し、災害医療連携体制を確立する。</p> <p>病院再開発事業で新設した各センター及び整備・拡充した施設等を中心に、高度で先進的な医療を展開する。また、地域医療機関と密接に連携し、島根県における最重要基幹病院として活動を展開する。</p> <p>地域医療機関への安全教育体制及び生涯教育の推進を図るため、システムの構築等の取組を引き続き行う。また、病院医学教育センターを中心に関係部署と連携し、災害時の医療安全・感染対策に向けた医療支援体制と病院機能を強化するとともに、プライバシーマーク遵守の推進を図る。</p>
	47	疾病予知予防拠点と附属病院腫瘍センターが連携し、「未病」対策も含めた臨床研究を通じて先進的な生活習慣病及びがん診療体制を提供する。	医療担当(医学部)	<p>疾病予知予防拠点が取り組んだ、糖尿病・動脈硬化性疾患などの生活習慣病、アレルギーの予防プログラムを活用し、附属病院腫瘍センター及び県内医療機関や地域行政機関が連携を図り、生活習慣病・がん対策及び新生児障害発生予防対策を推進する。</p> <p>病院再開発事業により新病棟内に腫瘍センター及び緩和ケア病棟を設置し、高度で先進的ながん治療とともに、患者に寄り添う緩和ケア診療を開始する。</p>

中期目標	整理番号	中期計画	主担当理事	平成23年度計画
ワーク・ライフ・バランスを重視した、働きやすい職場環境の確立と効率的な病院運営を推進する。	48	全国で唯一「ISO14001」と「働きやすい病院評価」の認証を受けている大学病院として、環境に配慮し、かつ、男女共同参画を推進し、就業形態の改善を目指すとともに、病院経営企画戦略会議を中心に経営分析に基づいた戦略的なプロジェクトを展開する。	医療担当（医学部）	<p>病院再開発事業に係る施設整備計画を進め、療養環境の改善を図るとともに、臨床研修施設・福利施設の拡充及び「ISO14001」の更新審査を受審し快適な病院環境を構築する。</p> <p>フレキシブルな勤務体制等により働きやすい職場環境を維持し、医療研修等の充実を図る。また、「働きやすい病院評価」の更新審査を受審するとともに、ワークライフバランス支援室を中心に働きやすい職場環境作りを推進する。</p> <p>病院再開発事業により機能強化した新病棟の各施設を効率的に運用するため、機能的なシステムの開発や各診療科等が連携した病床運用及び効率的な設備利用を促進し、病院収入の確保を図る。また、医療情報システムと連携し医療の質の向上を図るとともに、DPC（診断群分類）データ等診療諸統計の構築・解析などを基とした病院医学分析システム(仮称)を構築する。</p> <p>医療材料の提供・管理体制にICタグ管理を用いるなど整備充実を図り、効率的な供給体制を構築するとともに、4大学連合等による医薬品の価格交渉を推進し、経費節減を図る。</p>
管理的経費の抑制を図り、その結果を教育・研究の実施体制の整備に反映させる。	65	附属病院については、定期的に経営分析を行い、再開発の影響、収益効果等勘案しながら効率的に管理的経費を執行する。	医療担当（医学部）	<p>病院再開発事業により機能強化した新病棟の各施設等を効率的に運用し、在院日数の短縮に努めるとともに、既設病棟の改修期間の休止病床数を最小限に抑えて病院収入の確保に努める。EMSを活用した省エネルギー化により経費節減を図るとともに、管理経費の効率的執行の中で、病院医学教育研究領域に重点を置き、感染対策、患者サービス、職員スキルアップ等を推進する。</p>

院内移植コーディネーターの設置が決まりました

泌尿器科 有地 直子、井川 幹夫

当院は現在県内唯一の献腎移植認定施設です。2010年11月に当院で初めての献腎移植を行い、今後も移植医療の普及と院内体制の整備に向けて取り組んでゆきたいと考えております。2010年7月17日に改正臓器移植法が全面施行され、国内の脳死下臓器提供数は増加傾向にあります。このような状況を受けて、本院では医師2名、看護師2名、医療ソーシャルワーカー1名、事務職員1名、技術職員1名からなる院内移植コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）の設置が決定しました。島根県ではコーディネーターの整備が他県に比較して遅れており、当院が県内で初めてコーディネーターを設置する施設となります。コーディネーターの役割には、臓器移植の普及啓発と臓器提供に関わる業務、さらに、臓器移植を施行する病院においては臓器移植に関わる業務が挙げられます。コーディネーターは、臓器提供の意思確認から臓器提供、

移植に至る一連の流れに関わり、臓器提供患者やその家族のケアにもあたります。当院は献腎移植認定施設ですので、将来的には献腎移植をうけた患者さんの移植後の経過の確認などの業務を行うことも目標としています。改正臓器移植法が施行され、脳死下臓器提供数は増加しておりますが、臓器提供の総数自体は大きく増加しておらず、慢性的な臓器不足の状況には変わりありません。島根県はこれまで臓器提供数の少ない県に属しており、臓器提供に向けた推進活動もコーディネーターの重要な役割になると考えます。心停止下、脳死下での臓器提供については個々人の意思が尊重されなければなりません。臓器提供を希望する人のその意思をより良い形で移植に繋げることができるようコーディネーターが“命のリレーの橋渡し”となることを期待しています。

平成23年度病院経営改善目標値

病院経営企画戦略会議(会計課経営支援室)

本院におきましては、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を基本理念に、急性期医療の充実、チーム医療の推進、教育環境の向上を目指して、毎年度病院経営企画戦略会議において病院経営改善目標値を定め、職員一丸となり効率的な病院経営に取り組んでいます。平成23年度は6月末に新病棟が開院し救急部、ICU・HCUなどを始めとする診療部門の本格稼働と手術室の増室、10月から7対1看護導入が予定されているため、より一層効率的な病院経営が求められることから、平成23年度も引き続き病院経営改善目標値を定めました。

なお、入院診療単価については年度中に診療及び看護体制が大きく変わることから2期に分けて目標値を定めました。また、7月から既設病棟の改修が始まり、一時的に病床数が減りますが、地域医療機関との連携をより一層強化し、患者さんの相互紹介を活発に実施し、病床の効率的な運用・管理を図り平均在院日数の短縮を目指しています。平成23年度もよりよい医療及び療養環境の提供に努めると共に、地域医療の向上と患者サービスの向上を図ることなどを目標としましたので、各診療科等におかれては目標達成に向けてご協力をお願いします。

1. 病院経営改善目標値について

区 分	目 標 値	参 考		
		22年度実績	21年度実績	20年度実績
入院診療単価	(上半期:4月~9月) 54,500円 (下半期:10月~3月) 60,000円	51,751円	48,596円	45,881円
一般病床平均在院日数	14日 23年度末までに	16.1日	16.4日	17.8日
病床稼働率	80%以上 継続的に維持	80.3%	80.0%	82.5%
年間新入院患者数	9,500人 (月平均800人)	10,100人 (月平均840人)	9,875人 (月平均823人)	9,462人 (月平均789人)
紹介率	65% 23年度末までに	64.6%	60.0%	56.8%
逆紹介率	45% 23年度末までに	41.5%	38.6%	37.1%
院外処方箋発行率	93%以上 年度平均	89.7%	89.3%	90.4%
医療費率	35.0% 年度平均	34.3%	36.4%	33.9%

注) 22年度実績は、22年4月~23年2月の実績値である。
但し、年間新入院患者数は、実績値を基にした年間推測値である

2. 教育・診療・運営改革と医療資源の有効的な活用に係る目標

大学病院連携型高度医療人養成プログラムの計画的な事業展開と医療人養成の推進

卒後臨床研修センターの研修評価体制の整備・充実

各種診療データ・諸統計を一元化したデータセンターの構築

新病棟開院に向けて診療体制の構築及び各診療治療施設の機能強化

救急部の救命・救急診療体制の強化・充実

各診療科、中診・特診の連携体制を基としたチーム医療の推進

入退院管理のシステム構築による病床の効率的な運用と管理

患者サービス向上を見据えた7対1看護の実施

地域医療連携センターの下に地域医療機関等との連携強化

安全マニュアルの活用、研修会の開催等により医療安全対策の強化・充実

病院環境整備の継続とISO14001の認証更新

医薬品、医療材料の経費削減と供給・管理体制の整備・充実

RFIDタグを利用した個体管理システム 島根大学附属病院へ世界初の本格導入

材料部 大平 明弘

かねてより小林祥泰病院長が手術器具にRFID（Radio Frequency Identification「電波による個体識別」の略）タグを取付け個体管理を実現する鋼製小物管理システムの導入を検討されていましたが、手術器械にRFIDタグをつけた管理システムを活用し、手術器具のトレーサビリティの実現、手術器具資産の効率的運用、そして作業の方々の負担軽減の効果が期待されます。

RFIDとは、ID情報を埋め込んだRFタグから無線技術を使用して、離れた場所から情報を取り込む技術です。

鉗子などの手術器械やガーゼの体内への置き忘れ事故が、手術1万件に1件くらいの割合で起きていると報告されています。1回の手術で数十種類、約50本～100本の手術器具を使いますが、そのすべてを術前、術中、術後に看護師が手作業で短時間にカウントすることが求められています。器材数が合わないと体内への器具置き忘れ事故を誘発するだけでなく、患者、医療従事者の双方に時間的、精神的負担を強いる事になります。また繰り返し使われている機器の劣化、精度低下があります。手術器械にRFIDタグをつけた管理システムを導入することにより、器械の個別管理が可能となり、器械の使用頻度、回数、耐用年数を把握できるようになります。

東京医療保健大学で行われた実験で、セラミックICタグの特徴が報告されています。このタグは耐熱・耐寒性で、-196～+200での使用が可能です。また一般の樹脂タグや有機ゴム製タグに比べて、耐薬品性、耐油性に優れています。ダイヤモンドに次ぐ堅さのセラミックが内部のICタグを守ります。細菌やウイルスに対しても衛生的で高温や薬剤による殺菌にも耐える性能が備わっています。他の素材との大きな違いは汚れなどで情報が消える事はありません。器具の完成品ではセラミックICタグを収めたステンレス製のホールダをレーザー溶接します。

このシステムにより、手術器具の使用履歴を明らかにすることで、手術に対する病院の基本姿勢が高く評価されると期待できます。

この方式は欧米を大きく引き離す可能性があり、島根大学医学部では全国国立大学の中で初めてRFID方式の導入が決定されました。全国的にも注目を集め、他の数カ所の国立大学病院でも採用が検討されています。



RFIDを取付けた鋼製小物

病院再開発に伴う医療機器整備について

会計課

本年6月開院予定の新病棟（C病棟）に最新の医療機器が整備されました。その主なものは下表「設備整備一覧」のとおりです。

本院の再開発計画の策定に当たっての基本的な考え方は、「教育・研究環境の充実、病院機能の強化、良質な患者アメニティの提供、効率的な病院運営」の観点から、「優れた地域医療人の育成」「集学的がん治療の推進」「高度先進医療の確立と普及」「急性期医療の充実」「快適な療養環境の提供」「病院資源の効率的な活用」を重点項目として設備についても整備がなされております。なお、平成23年度においても、引き続き、医療情報ネットワーク端末設備、患者用アメニティ設備等を整備する計画とされております。

設備整備一覧

設備名	部署	設備概要等
手術総合システム	手術部	新たに整備された手術部へ、手術台、无影灯、全身麻酔器という基本的な医療機器設備に、生体情報モニターとそれを統合する情報管理システム及び超音波診断装置、高度先進手術を行うための内視鏡システム、手術顕微鏡及び手術用機器システム、鋼製小物及びコンテナから構成される総合的なシステムの整備が図られることとなりました。
患者モニタリングシステム	集中治療部ほか	本システムは、ICUモニタリングシステム、病棟モニタリングシステム、手術部カメラシステムで構成され、現有機器が更新されたことにより、より信頼のおける患者情報を得ることができ安全な患者管理が可能となりました。また、本システムは現在本院が進めている電子カルテともリンクが可能であることから、情報の共有化の面で有効利用が図られることとなりました。
洗浄滅菌支援システム	材料部 手術部	本システムは、本院の手術部等で使用する器材の洗浄・滅菌装置であり、洗浄・滅菌業務における安全管理及び手術件数の増加に対応するため、高圧蒸気滅菌装置、蓄熱式蒸気発生装置外の関連機器を更新整備したものです。本システムを導入し業務を集中化したことにより、院内感染防止と安全で滅菌保証のできる医療器材の提供と業務の効率化が図れ、また、手術で使用する鋼製小物を手術別に整理・保管・搬送することができ、効率的な手術室運営が図られることとなりました。
薬液用滅菌・水処理システム	薬剤部	本システムは、薬剤部において、院内で使用する無菌製剤の原料となる蒸留水の生成装置及び高圧蒸気滅菌装置を一体化したシステムであり、本システムが更新整備されたことにより、様々な診療に不可欠な無菌製剤の安定供給が図られることとなりました。
周産期医療環境整備（NICU関連設備）	新生児集中治療部	平成21年度「周産期医療環境整備事業（NICU等設置）」で選定された「島根大学医学部附属病院NICU整備事業」により、附属病院再開発計画を契機に、NICU病床増床と、患者情報モニタリングシステム、保育器及び人工呼吸器外関連設備整備を行い、医療の提供のみならず、人材養成のための教育・研修体制の充実を図り、本事業の目的である地域医療における安心・安全な周産期医療体制の構築が図られることとなりました。
コンピューター断層撮影装置	救急部	新病棟（C病棟）1階救急部にコンピューター断層撮影装置を整備し、検査機能を強化することにより、救急医療体制の充実が図られることとなりました。
患者用電動ベッド	C病棟	新病棟（C病棟）へ配置する、一般病床、小児病床、ICU、HCU用療養ベッドの整備として、電動ベッド、小児用ベッド、高機能ICUベッド及び熱傷ベッドを整備し、質の高い医療の提供、療養環境アメニティの向上及びスタッフの操作性向上において労働環境の改善が図られることとなりました。
新病棟（C病棟）情報ネットワーク設備	C病棟	新病棟（C病棟）に病院情報管理システム及び関連業務を遂行するための基盤となる情報ネットワークを敷設したものであり、同時にサーバ室を整備することにより、災害に強い病院情報管理が図られることとなりました。

NPO法人卒後臨床研修評価機構による評価結果

卒後臨床研修センター 山口 修平

本年1月21日にNPO法人卒後臨床研修評価機構による訪問審査を受けました。同機構による評価は、臨床研修病院における研修プログラムの評価や研修状況の評価を行い、そのプログラムの改善とよい医師の養成に寄与することを目的としています。そして受審の結果、機構の定める認定基準を達成していると評価され、今回2年間の認定を受けることが出来ました。

これまでに全国で約100病院がその認定を受けており、本院は101番目の認定となります。当院における研修プログラムとその質の向上のための努力が一定程度評価されたものと考えております。とりわけ研修改善のために病院全体で取り組んできた熱意とそれに呼応した研修医の満足度に対しては高い評価を得ることができました。

一方、いくつかの問題点の指摘もありました。外来研修の充実（特にその経験症例数と患者の振り分け）、救急研修体制の整備（院内・院外研修格差の是正）、医療安全に対するリーダーシップ（インシデント報告数のアップ）、当直研修の充実などについて、今後の更なる検討・改善の必要性を指摘されました。研修管理委員会への外部委員の導入、たすきがけ病院での評価報告など、指摘の一部に関しては既に改善の取り組みを始めているところであります。今回評価機構から客観的な評価を受けたことで、研修内容のさらなる充実のきっかけにしたいと考えています。

本院では毎年、研修カリキュラムの改善、充実を図っています。23年度からは新たに総合医育成コースを設けプライマリケア研修を充実させると共に、救急研修病院を新たに加え、さらにたすきがけコースの一部で研修病院の自由選択を取り入れています。今後も研修プログラムの整備・充実に努力したいと考えています。



外来がん化学療法レジメンの病院情報システム登録について

がん化学療法レジメン管理委員会 鈴宮 淳司

当院では施設基準として「外来化学療法加算」を取得しており、この算定基準を満たすための設備を整えました外来化学療法室が、2003年から開設されました。その後、外来化学療法加算の点数が増えていますが、算定するための条件が変更となっています。現在の外来化学療法加算算定の必須要件として、1) 外来化学療法実施の同意書の取得と、2) がん化学療法レジメン管理委員会において化学療法レジメン（治療内容）の妥当性を評価し、承認・登録がなされていないと認められないとなっております。今まで、登録された化学療法レジメンが極めて少なかったため、この度、各診療科からレジメンの申請にご協力いただき、病院情報システムに登録されている化学療法レジメンの数を大幅に増やしました。

現在139件の外来化学療法レジメンがレジメン管理委

員会で承認され、病院情報システムに登録されました。承認されたがん化学療法レジメンの一覧は院内情報Webに掲載しています。

今後、外来化学療法の施行は、レジメンオーダシステムからオーダ入力いただきますようお願いいたします。また、外来化学療法実施の同意書を必ずお取りくださいますようお願いいたします。

なお、入院患者さんに対し施行する化学療法レジメンにつきましても今後実施する予定です。

また、新しい抗がん薬等が出た場合も必ずがん化学療法レジメン管理委員会へ登録の申請をお願いいたします。

関連の診療科の皆様方には今後共より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ロボットスーツHALを導入しました

リハビリテーション部 蓼沼 拓、馬庭 壯吉

今年度よりリハビリテーション部では、CYBERDYNE社が開発した福祉用ロボットスーツHAL（Hybrid Assistive Limb）を鳥根県で初めて導入しました。HALは筋活動を表面筋電から検出することで、装着者の意図した動作を読み取り、モーターが連動して機械的に動作のサポートを行います。装置の重さは、機械そのものがささえることで相殺されるため、装着者は感じることなく動くことが可能です。

福祉用には下肢装着タイプが提供されており、麻痺

や筋力の低下などが原因で立ち上がり・歩行が困難となった方に装着することで、歩行獲得にむけた訓練に活用できることが期待されます。すでに全国のリハビリテーション施設では採用実績があり、訓練に活用されています。

本装置は5年間の期間付きレンタルです。リハビリテーションの一環として活用していく予定ですが、研究での活用についてもご相談ください。



職員による装着テスト風景

あなたの胸痛の原因は食道にあるかもしれません

消化器内科 清村 志乃、古田 賢司、木下 芳一

胸痛は虚血性心疾患を代表とする循環器疾患の代表的症状です。しかし、そのほかにも、胸痛は呼吸器疾患、運動器（筋骨格）疾患、消化器疾患などの様々な疾患で生じる可能性があります。このような心臓以外の臓器に由来する胸痛を「非心臓性胸痛」と呼びます。非心臓性胸痛の重要な原因の一つに、食道への胃酸の逆流が関与していると考えられています。しかし、その有病率や病態に関してはまだ明らかにされていません。

現在、消化器内科では、胸痛を心配して受診された方の中で、循環器専門医によってその胸痛が「非心臓性胸痛」と診断された方を対象として、胃酸の逆流が

非心臓性胸痛の原因である方の頻度を明らかにすることを目的として調査を行っています。胸痛の原因を調べるための検査として、上部消化管内視鏡検査、食道内圧検査、24時間インピーダンス・pHモニタリング検査の3種類の検査を行っています。いずれも外来で可能な検査ですが、調査にご協力いただける場合は無料で行わせていただきます。

「非心臓性胸痛」と診断された方は消化器内科（火曜日）古田賢司医師あるいは（水曜日）木下芳一医師の外来でご相談ください。

原因不明の腹部膨満感の検査を始めました

消化器内科 石村 典久、木下 芳一

腹部膨満感（お腹が張る）はよくある症状で苦しくて患者さんを悩ませますが、その原因は内視鏡検査やCT検査などの精密検査を行ってもはっきりしないことが多く、治療にも苦労していました。最近、腹部膨満感で困っている人の一部で、小腸の中で細菌が過剰に増えることが原因であることが分かってきました。そこで消化器内科、肝臓内科では腹部膨満で困っている患者さんを対象に小腸の中で細菌が過剰に増えているかどうかを調べる検査を始めました。砂糖水を300ccぐらい飲んでいただいて、その後15分おきに3時間呼気（吐く息）の中に水素がどれぐらい含まれているかを調べる検査です。朝、絶食で病院に来ていただき砂糖水を飲んでから3時間かかりますが、患者さんには全く危険性や不快感や痛みのない簡単な検査です。検査は消化器、肝臓内科の研究費で行いますので患者さんの負担はありません。

お腹が張って困っている患者さんがおられたら消化器内科の外来担当医まで相談していただければ幸いです。

です。この検査で異常な腸内の細菌の増加がみつければ菌を殺す薬で症状が良くなる可能性があります。



検査は砂糖水を飲んでいただいた後、この写真のように小型の機械に息を15分おきに吹き込んで頂くだけです。

5大がんに関する地域連携パスについて

医療サービス課

本院は平成20年2月8日に都道府県地域がん診療連携拠点病院として指定を受け、島根県におけるがん診療の連携協力体制の構築に関し中心的な役割を担ってきました。各拠点病院は、指定を更新するために平成23年度中に我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん及び乳がんをいう。以下「5大がん」という。）について、地域連携クリティカルパスを整備しなければならないこととなっていますが、島根県内では未だ統一した様式を作成する状況にはなっていませんでした。

このため、本院では島根県、保健所、県立中央病院、医師会の協力を得て出雲圏域において検討会議を開催し、5大がんに関する地域連携クリティカルパスの様式を共同作業により作成しました。また、医師会のTV会議システムを利用して平成23年1月20日に県内の医療関係者に説明会を兼ねた様式の紹介を行い、県内の他の圏域にも統一様式を使用してもらうため電子媒体で配布を行いましたので、今後は普及が進むものと思われま。院内及び院外の関係の先生方にはご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本院における運用につきましては、現在、電子カルテに様式を搭載する作業を行っておりますので、しばらくお待ち願います。作成した連携パスの様式は

次のとおりです。

- 肝がん術後連携パス
- 乳がん術後連携パス
- 肺がん術後連携パス（ユーエフティ連携パス）
- 胃がん術後連携パス（フォローアップパス）
- ”（ティーエスワン連携パス）
- 大腸がん術後連携パス（フォローアップパス）
- ”（ユーエフティー/ロイコボリン連携パス）
- ”（ゼロータ連携パス）



患者用カルテ
「胃がん術後地域
連携パス」の表紙
(A4サイズ)

クリニカルパス大会を開催しました

クリニカルパス委員会 石橋 豊

平成23年3月14日（月）に、「第1回クリニカルパス大会」を開催しました。パス大会とは、クリニカルパス（以下、「パス」という。）に関連する職種が集まり、各診療科等で作成されたパスについての検討評価を行う事により、情報の共有化と院内の関心度の向上を図り、最終的にはパスの適正化を目指すものです。

第1回目である今回は、パスの使用経験が豊富な眼科の「両白内障パス」をテーマに取り上げ、私（パス委員会委員長）と岩田 春子 看護師長（パス委員会委員）が進行を行い、演者に各部門における発表をしていただきました。

当日は、医師・看護師・コメディカル・事務部門から50名の参加がありました。最初に小林病院長から挨拶があり、その後、私が本院におけるパスの作成・使用状況について説明を行った後、吉廻浩子 助教（眼科）、黒崎美穂 看護師（5階東病棟）、近藤雅文 診療

情報管理士（医療サービス課）から各々の職種の観点で「両白内障パス」についての検証結果や電子パスに移行したことによる効果について等の発表がありました。

また、発表終了後にはディスカッションが行われ、参加者がパスについての理解を深めることが出来ました。

大会の最後に井川副病院長から「今後、新病棟の開発に伴い、病床数が減少するため、白内障パスについても外来手術への移行が可能か今後検討していただきたい」との要望があり、平均在院日数の短縮を図るため院内におけるパスの作成を更に増やして行くことになりました。

今後も定期的にパス大会を開催予定ですので、本院におけるパスのレベルアップのため是非ご参加くださいますようお願いいたします。



日本顎顔面インプラント学会研修認定施設に認定

歯科口腔外科 恒松 晃司、関根 浄治

2010年12月5日付けで、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科・顎顔面インプラントセンターが、一般社団法人 日本顎顔面インプラント学会の研修施設第1号として認定されました。

歯科口腔外科・顎顔面インプラントセンターでは、2007年6月より口腔癌切除後の患者さんたちへのオーラルリハビリテーションの一環として、インプラントを積極的に用いています。

2007年12月には、先進医療の承認も得、その適応範囲を拡大しています。失われた口腔機能を早期に改善するためにインプラント治療を幅広く用い、多くの患者さんにご満足頂ける結果を残していきたいと考えています。

今回は、歯科口腔外科関連病院である島根県立中央病院歯科口腔外科ならびに玉造厚生年金病院歯科口腔

外科も同関連施設として認定されました。

大学病院と関連病院との力強い連携により、島根県のインプラント治療が世界水準の医療であり続けるように、今後さらなるインプラント治療の質向上に努めて参ります。



患者用クリニカルパス兼入院診療計画書の運用開始について

泌尿器科 平岡 毅郎、井川 幹夫

当科では以前よりクリニカルパスを積極的に取り入れ、経尿道的手術を中心に静脈血栓塞栓症（Venous thromboembolism: VTE）発症リスクに合わせて、きめ細かくパスを作成し運用してきました。今回さらに患者さんによりわかりやすく、また医師、看護師の業務の効率化を目指し患者説明用クリニカルパスと入院診療計画書を一つにまとめた「患者用クリニカルパス兼入院診療計画書」の運用を開始しました。この2つを1つにまとめることにより、入院診療計画書内の検査や治療の予定を、従来の電子カルテで作成する文字だけの説明文書と比較して、視覚的によりわかりやすく説明でき、患者さんの治療への理解がより高まり、検査や手術に対する不安解消にもつながるものと期待されます。また医療者側も作成する書類が少なくなり負担軽減になるものと思われまます。現在は経尿道的膀胱腫瘍切除術でのみの運用ですが、今後対応疾患を増やし運用していく予定です。また定期的にパスを見直し、より分かりやすく効率的なパスの作成を目指して行きたいと思います。

入院診療計画書

入院診療計画書

<病棟・病室>
6階東病棟

<主治医以外の担当者名>
本田聡

<病名または他に考え得る病名>
膀胱癌

<症状>
血尿

<治療計画>
膀胱癌に対し経尿道的手術を行います。

<検査内容及び日程>
○月○日に採血検査を行います。

<手術内容及び日程>
○月○日 経尿道的膀胱腫瘍切除術

<推定される入院期間>
4日間程度

<その他(看護、リハビリテーション等の計画)>
入院中不安なく過ごせるようにサポート致します。看護部 原 美知江

<主治医>
平岡毅郎

経尿道的膀胱腫瘍切除術 クリニカルパス兼入院診療計画書

(作成日) 20××年○月○日

(患者氏名) 山田 太郎 歳

(患者ID) 999999

(診療科) 泌尿器科

(病棟・病室) 6階東病棟 602号室

(病名又は他に考え得る病名) 膀胱癌

(症状) 血尿

患者交付用・診療経過付 用(※参照する方を ○ で囲む)

その他(看護、リハビリテーション等の特記事項) 入院生活が安全、安心におこなえるようにサポートします。

(主治医以外の担当者名) 本田聡

(主治医) 平岡毅郎 印

(看護師) 原 美知江 印

(本人・家族)

項目	入院前日(前)	手術前日(前)	手術当日(日)	術後1日目(一)	術後2日目(二)	術後3日目(三)	術後10日目(十)
通院・安静度		自由になされてかまいません。	手術後はベッドの上で安静です。	手術後初めて歩くときは必ず看護婦を呼んでください。 タオルで体を拭き、着替えします。	通院です。		外患再診です。(血出量確認で可です)
食事	食事は夕食までは食べても結構です。 24時間以降は飲水はできません。	食事は食べられません。	食事が開始になります。 尿がよく出るように水分を十分に取るようにします。	食事が開始になります。 尿がよく出るように水分を十分に取るようにします。	(退院後の生活について)		
検査						水分は1日に1.5～2リットルとるようにしましょう。 以下の症状が見られたら受診してください。 ○血尿がひどくなった。 ○尿が痛む、濁った。 ○残尿感、排尿時痛がひどくなった。 ○尿が出なくなった。 ○38度以上の発熱が続く。	
処置・薬剤	いつも飲んでいる薬がありましたら、看護婦にお渡しください。 手術に必要な物品を看護婦が確認します。 夜、下剤を内服します。 ●見れないようでしたら、看護婦にお知らせください。	お薬を飲みます。 ●横臥の下のシヤンを脱いでください。 ●手術室へは入れ歯、眼鏡、時計などをはずしていきます。 ●手術室には()持てる入室する予定です。 ●家族の方は手術開始の約30分前には来院するようにしてください。(但し、あなたが2例目の場合は、1例目の手術進行により、開始時間が遅くなることや、遅くなる場合があります。) ●術後は場合によっては股間マスキがついた状態で手術室から帰ってきます。 ●手術後は尿道に管が入っています。	●尿が痛む、濁ります。 ●尿が血が混ざります。 ●尿が38度以上の発熱が続く。	●尿が痛む、濁ります。 ●尿が血が混ざります。 ●尿が38度以上の発熱が続く。	●尿が痛む、濁ります。 ●尿が血が混ざります。 ●尿が38度以上の発熱が続く。	●尿が痛む、濁ります。 ●尿が血が混ざります。 ●尿が38度以上の発熱が続く。	
患者さん及びご家族への説明(東海指導・監修)	手術、院内パス、経尿パス(紹介状のある方)の説明をします。	外患で手術に備えて採血、心電図、胸部レントゲンなどの検査があり、麻酔科の診察があります。	入院生活、および手術について看護婦からの説明があります。 ●承認書は手術までに必ず提出してください。 ●主治医から手術、院内パス、経尿パスの説明があります。家族の方と確認していただきます。(時間は主治医が連絡します)。	●家族の方は手術中は看護婦で待機してください。病棟を離れられる場合は看護婦に連絡してください。 ●手術後に退院から本人・家族の方へ手術についての説明があります。	●尿の管を抜いた後は、尿漏れや尿閉となることや、排尿時に痛むことがあります。不安や疑問があるときはご連絡ください。	●主治医より経尿パスの説明があります(手術受診時、紹介状のない方)。	●手術をした膀胱の癌細胞について主治医から説明があります。 ●今後、経過観察する病院を紹介いたします。
手術に備えて必要なもの			●バスタオル2枚 ●タオル2枚 ●Tシャツ2～3枚 ●ティッシュペーパー(箱) ●男性ストッキング(看護婦から渡します)				
患者さんへの確認							

上段: 従来の入院診療計画書
下段: 患者用クリニカルパス兼入院診療計画書
検査や治療の予定が表形式にまとめられ、分かりやすくなっている

第4回島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

本年1月14日(金)、今年度で4回目となる「島根大学医学部附属病院経営懇談会」を開催しました。懇談会には、外部有識者として毎回お招きしている 千葉中央メディカルセンター 和漢診療科部長 寺澤捷年氏(元富山医科薬科大学医学部附属病院長)並びに(財)星総合病院 理事長 星 北斗氏(元日本医師会常任理事)にご出席いただき、本院からは、小林病院長ほか11名のメンバーが出席しました。

当日は、昨年新たに導入した山陰初の最新型大型医療機械である「320列高性能X線CT装置(胸部から骨盤撮影が旧装置では10秒 3秒に)」や副作用が伴わない「がんの温熱療法装置(ハイパーサーミア)」のほか、6月27日(月)開院予定の新病棟で、ほぼ出来上がり格段に拡充された救急部の各室や、最新設備を装備する予定の手術室、ICU、HCU、腫瘍センター及び新たに設置する緩和ケア病棟などの視察を行いました。両有識者からは、再開発によって高機能化された大学病院が地域の医療環境の改善に大きく貢献されることを期待しますとのご意見がありました。

附属病院経営企画戦略会議(会計課 経営支援室)

引き続き、懇談会を開催し、前回の経営懇談会における提言の取組、病院運営改善状況、高度医療人育成事業の取組、地域医療再生事業と医療交流の取組、看護職員確保対策の取組など、病院運営全般に亘り、幅広く活発な意見交換が行われ、特に寺澤委員からは、新卒看護師の離職者防止も踏まえた初期研修制度を新たに確立したことについて高く評価を頂き、今後、制度導入効果の分析を行い継続する事が必要であること、星委員からは、診療データベースや治験データベースなどを一元化させた患者基本データベースの構築が、病院医学研究等の発展に繋がるというご意見をいただき、大変有意義なものとなりました。

今後は、「附属病院経営企画戦略会議」を中心に懇談会の意見を参考に、より一層の改善に取り組むこととしています。



懇談会の様子

(正面左:寺澤委員 , 右:星委員)



新病棟視察の様子



日本睡眠学会認定医療機関として

日本睡眠学会認定臨床検査技師 田中 延子

現在、全国で200万人以上の方が睡眠時無呼吸症候群といわれています。症状は、夜間の睡眠時に起こる無呼吸により、睡眠が阻害され、ひどい人は一晩中睡眠が取れず、無呼吸による低酸素状態が長く続く為、翌日は日中の強い眠気、仕事の能率低下、集中力の欠如による事故等、他人からみるとどう見ても怠け病と思われがちな状態になります。

遡ること8年前の新幹線の居眠り事件を覚えている方も多いと思いますが、当時はおおきく取り上げられました。居眠りによる交通事故も後を断ちません。このように社会的にも大きな損失を引き起こす病気の患者さんを救うべく、当院では睡眠時無呼吸症候群の検査を行っています。

無呼吸指数の高い患者さんにはC-PAP（経鼻的持続陽圧呼吸療法）の治療を進めています。これまでは検査の待機患者さんが多く、心苦しく思っていました。2011年7月からは新病棟最上階の見晴らしのよい個室を

2部屋、検査専用病室として稼働することになりました。これにより、待機期間の短縮、そして島根県全体への啓発活動など、この病気と闘っている患者さんのためにお手伝いしていききたいと思います。

現在、患者さんの一番の悩みは、C-PAPはいつになったら不必要になるのか、ということに尽きます。基本的にC-PAPは呼吸を助ける器具であり、病気を治す為のものではありません。この悩みをできるだけ緩和する為に、2年前より患者さんのためのC-PAP交流会を開催し、患者さん、医師、検査技師、メーカーとのタグによりお悩み解消会として行っています。まだ2回目ですが、患者さんの意識も高まってきているように思います。今後はもっと参加しやすいように、西部地区でも開催したいと願っています。

睡眠検査の現状は、睡眠時無呼吸検査が大多数を占めていますが、今後は多彩な睡眠障害も視野に入れて取り組んでいききたいと思います。



C-PAP交流会の様子



平成22年度病院長表彰について

総務課 人事管理室

平成22年度の附属病院の運営に顕著な功績等があったとして、3月16日に個人6名、看護部・事務部の職員が病院長表彰を受けました。

今年度から新たに、表彰対象分野に「治験の活性化」と「学生又は研修医の指導（最優秀指導医賞）」を設け、治験関係では、治験の実施数、同意数、症例数で群を抜いていた橋本龍也講師と山内美香助教が受賞しました。また、最優秀指導医賞には、学生や研修医を熱心に指導し、研修医や学生の信頼が厚い山口拓也助教が受賞しました。

受賞者は次の方々です。



所 属	氏 名	職 名	表 彰 理 由
緩和ケアセンター	橋本 龍也	講師	治験分担医師として過去3年間に5件の治験実施にかかわり、同意を取得した症例数および主治医として担当した患者数ともに院内でトップクラスの実績を挙げ(のべ22症例)、本院の治験の活性化に大いに貢献した。
内科学講座(内科学第一)	山内 美香	助教	治験分担医師として過去3年間に3件の治験実施にかかわり、同意を取得した症例数および主治医として担当した患者数ともに院内でトップクラスの実績を挙げ(のべ20症例)、本院の治験の活性化に大いに貢献した。
神経内科	山口 拓也	助教	神経内科の指導医として、研修医やポリクリ学生に対してたいへん熱心に指導を行い、研修医や学生の信頼も厚く、研修医が選ぶベスト指導医賞に選出された。このことから、今年度の最優秀指導医賞に最もふさわしい若手医師として選考した。
薬剤部	西村 信弘	准教授	診療系での環境マネジメント活動を感染対策と統合して実施し、抗菌剤の適正使用のためのシステム構築、医療系廃棄物のマニュアル作りなどを行い医療の安全管理に貢献した。
看護部	竹原 富栄	6階東病棟看護助手	患者さんの安全安心な入院生活のために、医療チームの一員として看護師を支え、暖かい気持ちで相手を受け入れるという、医療現場において大切な部分を看護助手という立場で長年継続して行っている。
医療サービス課	土江 勉	課長補佐	初診紹介患者診療予約、紹介状や診療結果報告書等のシステム構築に始まり、県内各地での地域医療連携講演会の企画や開催に奔走した。また、地域住民及び地域医療・福祉・保健関係者との連携の強化はもとより、附属病院診療案内や「しろうさぎ」の編集など多くの業務に中心的役割を果たし、地域医療連携センター業務の推進、拡充に大いに貢献した。
看護部	田中 真美 母里 恭子 福永 まゆみ 勝部 久美子	看護管理室看護師長 同 副看護師長 同 副看護師長 同 副看護師長	新人看護職員の卒後臨床研修について精力的に活動を行い、各部署の教育委員や看護師長との連携を図りながら新しい教育体制を確立させた。新人教育だけでなくラダー別研修等においてもOFFJT(集合教育)とOJT(現場教育)を繋げるための推進役として熱心に取り組んだ。
総務課・会計課	片寄 雅朋 齋藤 健児 渡部 妙子 伊豆 百合子	総務課課長補佐 会計課課長補佐 総務課専門員 総務課専門職員	卒後臨床研修評価機構による評価を本年度新規に受審するにあたり、多大な審査資料の作成、関係部署等の調整、及び不十分な体制等については早急に見直しなど行った。このことは、今後の本院のイメージアップに繋がり、更なる研修医の獲得が期待できる。

ワークライフバランス支援室が「大学病院マネジメントセッション」で事例発表しました

総務課

平成23年2月3日（木）、茨城県つくば市で開催された平成22年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議の中で、大学病院における人材育成や人事制度を検討する「大学病院マネジメントセッション」が実施され、ワークライフバランス支援室からは解剖学講座津森准教授（ワークライフバランス支援室副室長）、医学部総務課安友課長、片寄課長補佐が参加しました。

今年度のセッションのテーマである「マネジメントを人の視点から考える～個人から組織、それを動かす仕組み」に基づき、人材育成、人事制度、組織の実践など「人」に関する取り組みに関して、事前に全国国公私立大学病院から演題が募集されました。本学からは「ワークライフバランス支援室の取り組み - 医療職の就労継続・離職防止から新たなブランド力の確立へ」をエントリーしたところ、セッション当日に会場で口頭発表する機会が与えられる4大学の一つに選定されました（応募演題総数19題）。

当日は、第1部事例発表において、津森ワークライフバランス支援室副室長が支援室の5つの事業（情報発信・保育支援・相談窓口・キャリア教育・フレキシブルな勤務の紹介と提供を）を紹介し、本学の充実した

両立支援策により、出産後の女性医療職の職場復帰がスムーズになったこと、さらに男性職員の意識改革も進んで育児休業取得例もあることなど、事業効果の高さについても説明を行いました。第2部パネルディスカッションでは、本学からは津森副室長と安友総務課長とが登壇し、選定4大学を中心に会場の参加者（約220名）も交えて意見交換が行われました。本学に対しては、ゲストの文科省高等教育局 玉上大学病院支援室長、座長の東大病院櫛山事務部長をはじめとして、フロアの他大学病院関係者から病児・病後児保育の運営方法や子育て中の女性医師の現状について、あるいは県内各医療機関や自治体との連携などに関して質問が寄せられ、当支援室の活動への関心の高さが伺われました。

今回「大学病院マネジメントセッション」の事例発表機関の一つに選定されたことは、当支援室の取り組みを他大学病院関係者にPRする絶好の場になっただけでなく、多くの他大学病院関係者と今後も情報交換をしていくことを確認する良い機会にもなりました。



ワークライフバランス支援室の事例呈示



パネルディスカッションの様子

島根大学病院の広報の取り組み

病院ニュース しろうさぎ 年4回発行

コンセプト

- ・手作りによる職員からの情報発信
- ・病院職員・学生間の情報の共有化
- ・医療サービスに関する意識の標準化
- ・職員のアメニティー向上

特徴

病院ニュース編集委員会（副病院長、医師、看護師、技師、事務の計10名）が、原稿募集から編集までを行い、年4回発行しています。

2005年の創刊から23号まで（2011年2月現在）、デザイン、割付、編集等を院内で行っています。職員、学生に配布するとともに、病院HPからも閲覧できます。

病院診療案内 毎年発行

コンセプト

- ・地域の医療への貢献
- ・診療の手引きとなるような情報誌
- ・顔の見える病診連携に貢献

特徴

顔の見える連携関係作りと医師の顔写真入り診療紹介や治療実績、最新情報を記載しています。地域に根ざした医療サービスの提供により地域医療へ貢献することを目的に設置した地域医療連携センターが発行しています。

【シンボルマークの由来】

出雲には大衆、意地悪な神に毛皮を剥がれて苦しんでいた神様（いなば）の「白ウサギ」を、大國主命（おおくにのみこと）がウサギの種を使って治したという神話があります。ガマの穂には炎症を抑える作用があり、この故事から、大國主命は医の神様とも云われ、大國主命を祭神とする出雲大社がある出雲市は、古来より医療神様の地とも云われています。この神話にちなんで、ウサギがガマの穂にくるまっっている姿を本院のシンボルマークとしています。

健康番組の制作・放映 TV 週4回放映

コンセプト

- ・メディアを通じた地域住民への健康に対する啓蒙
- ・大学病院が製作する地域の放送番組として地域に貢献

特徴

平成13年から県民へ健康に対する啓蒙と本院の最新の診療内容を広く紹介し理解を得る目的で、出雲ケーブルビジョン放送と共同で、いきいき講座「まめなからがら」という健康番組を制作・放映（週4回）しています。県内のケーブルテレビや院内にて放映しています。（製作担当 地域医療連携センター）

病院ホームページ WEB 随時更新

コンセプト

- ・アピールポイントを明確
- ・病院内外の関連情報を共有化
- ・診療案内は「患者さん向」「医療機関向」の両方を網羅
- ・臨床研修や業務内容について紹介VTRを掲載（動画）

特徴

プライバシーマーク・ISO14001・働きやすい病院評価、病院機能評価の取得や、各バナーをわかりやすく表示。診療案内を充実し、患者さんや地域医療機関への情報提供、職員の意識向上やスキルアップにつながっています。動画の配信（卒後臨床研修や看護部の紹介VTR）や関連ページとの連携で、人材募集に力を入れています。

ポスターセッションにも参加しました

がん医療従事者研修を隠岐島前病院に中継

医療情報部 花田 英輔、医療サービス課

本学では最新のがん医療研究成果に関する知識の習得を目的としてほぼ定期的に「島根大学がん医療従事者研修」を開催しています。

この研修会は医療関係者であれば学外からの参加も可能ですが、昨年11月以降は毎月1回の割で隠岐島前病院への中継を行っています。隠岐島前病院からの申し出により、同院の皮膚科診療支援に使用していた通信システム「ミュウ太」（本学が産学連携で開発）を用いて実施しています。

臨床大講堂および臨床小講堂のマイクシステムの音声と、臨床大講堂ではスクリーン撮影用のカメラをそれぞれミュウ太に接続し、講義を中継するだけでなく、隠岐との質疑応答も可能としています。隠岐島前病院では毎回7名から15名の医師や看護師などが受講しています。

今後も求めがあれば中継し、隠岐島前地区でのがん医療の質向上に寄与したいと考えています。



臨床大講堂での講義の様子
(右下端が「ミュウ太」端末)



隠岐島前病院での受講の様子
(左下端が隠岐島前病院の白石病院長)

地域医療交流サロンが移転・拡充しました

地域医療支援学講座 吉岡 みち子

昨年の6月30日に開設した地域医療交流サロンが、今年2月に移転しました。移転先は共同研究棟207号室で、地域医療支援学講座の隣です。ご配慮頂いた部屋は広くて、多くの方を受け入れることが可能になりました。早速にワークライフバランス支援室がランチョントークに利用されました。たいへん便利ですので、学内の方にも大いに利用して頂きたいと思っています。

す。地域医療交流サロン事業において、地域の行政・医療機関と医学生との交流会では利用者は110名を超えました。地域医療支援学セミナーの実施や、学生のサークル活動の拠点としても利用され、総勢510名を超える学生・地域の方々に利用されました。今後、事業内容も更に充実させていく予定です。地域の情報も満載し、皆様のお越しをお待ちしております。



新しい「地域医療交流サロン」



学生サークル活動「地域医療研究会」の利用風景

医師事務作業補助者養成研修を実施しました

医療サービス課

近年、医師の業務については、病院に勤務する若年・中堅層の医師を中心に極めて厳しい勤務環境に置かれており、その要因の一つに、医師でなくても対応可能な業務までも医師が行っている現状があるとの指摘があります。また、看護師等の医療関係職についても、その専門性を発揮できていないとの指摘がなされています。

本院は、平成18年度より病院長のリーダーシップのもと、「働きやすい病院に向けて」「専門職が専門職に専念できる環境へ」をスローガンに医師、看護師等の医療関係職員の各種負担軽減計画を策定し実施してきました。取組の一つに、平成22年度から実施している医師事務作業補助者（以下「医師クラーク」という。）の養成計画があります。現在、本院で雇用している病棟・外来クラーク及び病院経費で雇用し各診療

科に配置している事務補佐員について、希望者全員を対象に（株）ニチイ学館を講師としたメディカルドクターズクラーク講座の受講と本院独自の院内研修を実施し48名が受講しました。

平成23年度には48名と既に医師クラーク資格を取得している者等を合わせた55名を対象に、研修医オリエンテーションの聴講及びクリニカルスキルアップセンターにおける「院内BLS研修」を課し、医師クラークの研修修了者として全診療科に配置することとしています。既に特定の診療科において、専任の医師クラークによる退院サマリーの仮作成による医師の負担軽減の効果は検証済みですので、今後は、医師クラーク研修修了者に対して電子カルテ上の権限の付与を行い、習熟度に応じて退院サマリーのみならず診断書の仮作成等まで補助業務を拡大する予定です。

第14回環境報告書賞 公共部門賞を受賞

施設企画課 環境マネジメント担当

「島根大学環境報告書2010」は、第14回環境報告書賞の公共部門賞を受賞しました。

この賞は、東洋経済新報社及びグリーンポータリングフォーラムが共催し、環境報告書の普及とCSR（企業の社会的責任）の向上を願い、創設されたものです。この中でも、公共部門賞は特別企画として第10回から開始され、現在は常設賞となっています。

今回の受賞は、「ほぼ全ての取り組みについて、PDCAの観点から明確に開示している点」が高く評価されたことによるものです。本年度から取り入れた掲載方法でしたが、良い評価を得たことで、今後への励みとなりました。

なお、2月24日に東京都内で表彰式があり、松江キャンパス環境管理責任者である宅和 暁男理事が代表として出席し、公共部門賞では筆頭受賞者として、東洋経済新報社代表取締役社長が表彰状文面を読み上げた後、表彰状及び副賞であるトロフィーを受賞しました。

本学の環境報告書は、公表当初より、Webでのみ掲載しております。引き続き、より良い環境報告書による公表を目指してまいりますので、是非この機会に一度ご覧ください。

島根大学環境報告書Web掲載場所

http://www.shimane-u.ac.jp/iso14001/index.php?option=com_content&task=view&id=4&Itemid=5



東洋経済新報社より副賞を受賞する宅和理事

病院運営委員会の報告

平23年2月16日

任期満了に伴う診療科長・副診療科長を承認しました。

任期:23.4.1～25.3.31

診療科名	診療科長	副診療科長
内分泌代謝内科	杉本利嗣 教授	山口 徹 准教授
血液内科	田中順子 講師	高橋 勉 助教
消化器内科	木下芳一 教授	石原俊治 准教授
肝臓内科	佐藤秀一 講師	三宅達也 助教
神経内科	山口修平 教授	小黒浩明 講師
膠原病内科	村川洋子 診療教授	近藤正宏 助教
呼吸器・化学療法 内科	磯部 威 教授	久良木隆繁 講師
腎臓内科	伊藤孝史 講師	
循環器内科	田邊一明 教授	佐藤秀俊 講師
皮膚科	森田栄伸 教授	古村南夫 准教授
小児科	山口清次 教授	福田誠司 准教授
消化器外科	平原典幸 講師	三成善光 助教
肝・胆・膵外科	田中恒夫 教授	矢野誠司 准教授
小児外科	久守孝司 講師	
乳腺・内分泌外科	板倉正幸 講師	
心臓血管外科	織田禎二 教授	花田智樹 講師
呼吸器外科	岸本晃司 准教授	宮本信宏 助教
整形外科	内尾祐司 教授	松崎雅彦 講師
脳神経外科	秋山恭彦 教授	永井秀政 准教授
泌尿器科	井川幹夫 教授	椎名浩昭 准教授
精神科神経科	堀口 淳 教授	宮岡 剛 准教授
産科	宮崎康二 教授	青木昭和 准教授
婦人科	宮崎康二 教授	金崎春彦 講師
耳鼻咽喉科	川内秀之 教授	青井典明 講師
眼 科	大平明弘 教授	児玉達夫 准教授
放射線科	北垣 一 教授	鶴崎正勝 准教授
放射線治療科	内田伸恵 教授	森山正浩 学内講師
麻酔科	斉藤洋司 教授	今町憲貴 講師
歯科口腔外科	関根浄治 教授	石橋浩晃 准教授
臨床検査科	長井 篤 准教授	

平23年2月16日、平23年3月16日

中央・特殊診療施設の部長、副部長、センター長及び副センター長を承認しました。

任期:23.4.1～25.3.31

施設名	部長及びセンター長	副部長及び副センター長
検査部	長井 篤 准教授	塩田由利 助教
手術部	佐倉伸一 准教授	井川幹夫 教授
放射線部	北垣 一 教授	吉廻 毅 准教授
材料部	大平明弘 教授	田中恒夫 教授
輸血部	竹谷 健 講師	
救急部	橋口尚幸 教授	山内健嗣 教授
集中治療部	斉藤洋司 教授	庄野敦子 学内講師
病理部	丸山理留敬 教授	原田祐治 准教授
医療情報部	津本周作 教授	花田英輔 准教授

施設名	部長及びセンター長	副部長及び副センター長
リハビリテーション部	馬庭 壮吉 准教授	小黒 浩明 講師
光学医療診療部	天野 祐二 准教授	結城 崇史 助教
血液浄化治療部	椎名 浩昭 准教授	伊藤 孝史 講師
治験管理センター	川内 秀之 教授	直良 浩司 教授
地域医療連携センター	川内 秀之 教授	花田 英輔 准教授 山口 拓也 助教 日原 千恵 副看護部長
卒後臨床研修センター	山口 修平 教授	石橋 豊 診療教授 鬼形 和道 講師 谷戸 正樹 講師
臨床遺伝診療部	山口 清次 教授	長井 篤 准教授
緩和ケアセンター	斉藤 洋司 教授	内田 伸恵 教授 中谷 俊彦 准教授
新生児集中治療部	山口 清次 教授	高野 勉 助教
腫瘍センター	鈴宮 淳司 教授	井上 政弥 助教
臨床栄養部	足立 経一 教授	川口 美喜子 栄養士長
子どものこころ診療部	岸 和子 講師	安田 英彰 助教
病院医学教育センター	廣瀬 昌博 診療教授	山口 清次 教授
内視鏡手術トレーニングセンター	久守 孝司 講師	石村 典久 講師
地域医療教育研修センター	石橋 豊 診療教授	熊倉 俊一 教授
MEセンター	矢野 誠司 准教授	糸賀 修也 臨床工学技士長
クリニカルスキルアップセンター	狩野 賢二 講師	八塔 累子 副看護部長

平23年3月16日

幅広い診療能力を有する総合医の育成及び大学病院と地域中核病院等の連携形態（地域医療の充実）の確立を目的に、院内の各部門（卒前臨床教育部門、卒後臨床研修センター部門、総合医育成部門【寄附講座】、生涯教育研修部門【寄附講座】、スキルラボ部門）との連携・調整等を行う横断的な組織として「地域医療総合教育センター」の設置を承認しました。

幅広い診療能力を有する総合医の育成及び大学病院と地域中核病院等の連携形態（地域医療の充実）の確立を目的に、大田市からの財政支援（寄附）による寄附講座「総合医療学講座」及び「大田総合医育成センター」の設置を承認しました。

附属病院経営懇談会の意見を踏まえ、「一元化したデータベースの構築とそのデータベースの効率的な管理運用をおこなうための組織として「データセンター」の設置を承認しました。

看護師・助産師の確保を目的とした、看護師養成施設最終学年在籍学生への奨学金制度「平成23年度島根大学医学部附属病院の看護師等育成奨学金募集要項」を承認しました。応募資格は次のとおりです。

1. 応募資格 平成23年度に看護師養成施設最終学年に在学又は、助産師専攻コースに在学している看護学生で、看護師又は助産師の資格取得後、直ちに本学医学部附属病院で就業を希望する学生とします。ただし、類似の奨学金（看護師として特定の病院等に勤務することを条件とした奨学金）を既に受給している学生又は受給しようとしている学生は対象外とします。
2. 募集人員 30人（ただし、定員になり次第締め切ります。）
3. 奨学金貸与額 月額 34,000 円を貸与します。（総額 204,000 円）
4. 奨学金の貸与方法 6か月分を一括貸与します。
5. 貸与期間 平成23年10月1日から平成24年3月31日までとします。
6. 申込期間 平成23年5月2日（月）から平成23年6月30日（木）まで
7. 申込手続き 島根大学医学部総務課人事担当（0853-20-2021・2022）に申し込みください。様式はホームページからでも入手できます。

平23年3月16日

島根大学医学部附属病院うさぎ保育所の延長保育料について「1時間 300 円」を「30分につき 150円」に変更することを承認しました。

院内移植コーディネーターを承認しました。

職種	所属・職名	氏名	任期
医師	脳神経外科 准教授	永井 秀政	平 23.4.1～平 26.3.31
医師	神経内科 講師	小黒 浩明	〃
看護師	看護部	山本 芳枝	〃
看護師	看護部	塩野 明日香	〃
M S W	医療サービス課 技術職員	春日 みゆき	〃
事務職員	医療サービス課 医療支援室課長補佐	職指定	〃
技術職員	泌尿器科 技術職員	平木 美穂	〃

病棟医長等の異動を承認しました。

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
内分泌代謝内科・血液内科	外来医長	矢野 彰三	山口 徹	平成 23 年 4 月 1 日
消化器内科・肝臓内科	外来医長	飛田 博史	石村 典久	〃
	病棟医長	古田 賢司	数森 秀章	〃
神経内科・膠原病内科	外来医長	角田 佳子	近藤 正宏	〃
泌尿器科	外来医長	本田 聡	椎名 浩昭	〃
	病棟医長	平岡 毅郎	本田 聡	〃
精神科神経科	外来医長	和気 玲	宇谷 悦子	〃

ボランティア活動について

医療サービス課 患者サービス室

ボランティアコンサート

1月27日 木次乳業軽音楽同好会 ギタレンジャーさんの
「ギター弾き語りコンサート」



2月24日 山陰民謡と民謡の会の皆さんによる
「山陰民謡と民謡の夕べ」



お知らせ

編集委員会からのお願い

病院ニュースは年4回発行予定です。
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてもらいたいニュース、PR、我が家のペットなどを編集委員会へお寄せください。

担当

医療サービス課 医療支援室(内線2068)

Email: [しろうさぎ専用アドレスです。 shirousag@med.shimane-u.ac.jp](mailto:shirousag@med.shimane-u.ac.jp)

(病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。)

あなたの未来が
ここにある



看護師 助産師大募集

皆様のご応募お待ちしております。

職種 看護師 **95名**・助産師 **5名**



平成23年
病院が新しく
なります。

私たちは「地域に信頼される質の高い看護」を提供します。

国立大学法人
島根大学 医学部附属病院

◎看護部ホームページ/<http://www.suh-nurse.jp/>



携帯はコチラから

島根大学看護部

問い合わせ先 医学部総務課 0853-20-2021